

事業所名		グッドスマイル		公表日		令和8年 3月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動内容や時間帯を分けて実施し、発達支援室内の混雑を避けながら安全に活動できるよう調整している	支援室の広さに対して利用定員が多い時間帯があり、スペースに応じた定員設定や環境調整の見直しが必要である	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		利用定員や子どもの特性に応じて職員配置を調整し、必要に応じて役割分担や見守り体制を強化している	支援度の高い子どもが重なる時間帯では職員の負担が大きく、配置基準にとられない柔軟な人員確保の検討していく	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	5	動線や物の配置を固定し、視覚的な手がかりを用いて、子どもが見通しを持って行動しやすい環境づくりを行っている	建物の構造上、階段が多くバリアフリー化に限界があるため、移動時の見守り強化や動線の工夫など安全面への継続的な配慮が必要である	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		日々の清掃や整理整頓を行い、活動内容に応じて机や用具の配置を調整するなど、落ち着いた過ごせる環境づくりを意識している	活動が重なる時間帯には空間が手狭になることがあり、人数や活動内容に応じたスペースの使い分けや環境調整の工夫をしていく	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		子どもの状態に応じて、個別の部屋や場所を使用できるよう配慮している	利用人数や時間帯によって十分に活用できない場面があり、空間の使い方に工夫が必要である	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		6		PDCAサイクルへの職員全体の参画は十分とは言えず、今後は振り返りの機会や共有の仕組みを整えていく	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者向け評価表を通して意向や要望を把握し、職員間で共有した上で支援内容や業務の見直しに活かしている	評価内容が具体的な改善に結びつくよう、振り返りや共有の方法を検討していく	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員からの意見や気づきを共有する機会を設け、業務の進め方や支援内容の見直しに活かしている	意見をより継続的な業務改善につなげるため、共有方法や振り返りの仕組みについて引き続き工夫が必要である	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		今後、外部評価の実施について検討し、業務改善につなげられる体制づくりを進めていく	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		6	事業所内研修を定期的に実施している		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムを作成し、ホームページ上で公表している		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		co-miを活用してアセスメントを行い、児童発達支援計画を作成している	内容がより伝わるよう、記載や共有の工夫を続けていく	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児童発達支援管理責任者を中心に、関係職員で情報を共有しながら放課後等デイサービス計画を作成している	検討内容をより深められるよう、意見交換の機会を工夫していく	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		全職員が必ず目を通し、計画に沿った支援を行っている	計画内容が日々の支援により反映されるよう、実践場面での確認や振り返りを意識していく	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		日々の行動観察を記録し、職員間で共有することで、こどもの適応行動の状況を把握している	評価の視点や方法にばらつきがあり、アセスメントの精度向上に向けて整理が必要な点が多く残っている	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインの視点を踏まえ、本人の状況や学校生活を意識しながら、支援内容を具体的に整理して計画へ反映している	支援内容が日々の関わりとより結びつくよう、計画と実践のつながりを意識した見直しを続けていく	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		活動プログラムは、毎月担当する全職員で話し合いながら立案している	活動内容がより支援目標に結びつくよう、振り返りや検討の視点を工夫していく	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		活動内容が固定化しないよう、職員間で意見を出し合いながらプログラムを検討している	内容が似通ってきている部分もあるため、新しい視点や発想を取り入れる工夫を進めていく	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	日々の様子を踏まえ、個別対応と集団での関わりを状況に応じて調整しながら支援している	動の組み立てが形式的にならないよう、こどもの変化を踏まえた見直しを続けていく	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	その日の療育分担任を作成し、職員それぞれの役割を明確にした上で支援にあたっている	急な変更や状況の変化にも対応できるよう、分担内容の見直しや共有のタイミングを意識していく	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	支援終了後、その日の支援内容や気づいた点について、グループラインを活用して職員間で共有している	共有内容を次の支援により活かせるよう、振り返りの視点を整理していく	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	日々の支援について記録を継続的にを行い、内容を振り返りながら支援の見直しに活かしている	記録をより効果的に支援改善へ結びつけられるよう、活用の視点を意識していく	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	定期的にモニタリングを行い、こどもの状況を踏まえて支援計画の見直しを行っている	モニタリング結果をより分かりやすく整理し、計画の見直しに反映できるよう工夫していく	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	活動内容に偏りが出ないよう、日々の支援の中で複数の活動要素を組み合わせ取り入れている	活動の組み合わせがより支援目的に沿ったものとなるよう、内容や構成の見直しを続けていく	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	活動や関わりの中で、こども自身が選んで取り組める場面を設け、意思を伝える経験を積めるよう支援している	状況に応じて選択肢の出し方を工夫し、無理なく自己決定につながる関わりを続けていく	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	児童発達支援管理責任者を中心に、必要に応じて関係する職員が参画している	会議内容をより現場支援に反映できるよう、参加職員の選定や共有の方法を意識していく	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	協力医療機関を確保し、必要に応じて連携できる体制を整えている	医療機関以外の関係機関とも、状況に応じた連携の在り方を引き続き検討していく	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	学校と必要な情報を共有し、下校時刻の確認や送迎時の連絡調整を行いながら支援につなげている	情報共有がより円滑に行えるよう、連絡のタイミングや方法を整理していく	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	保護者からの聞き取りを通して就学前の様子を把握し、必要に応じて関係機関へ連絡を行っている	情報の整理や共有がより支援に活かせるよう、連携の取り方を引き続き検討していく	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	卒業後の移行を見据え、支援内容を引き継げるよう情報提供ができる体制を整えている	実際の移行場面を想定し、情報提供の時期や内容について整理を進めていく	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	5	必要に応じて速やかに相談支援専門員へ連絡し、助言を得ながら支援に活かしている	相談内容や助言をより体系的に整理し、継続的な支援に反映できるよう意識していく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6	現時点では、放課後児童クラブや児童館等との交流の機会は設けていない	こどもの状況や安全面を踏まえながら、地域との関わり方について今後検討していく
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6	現時点では、（自立支援）協議会等への参加は行っていない	今後、事業所の状況を踏まえながら、協議会等への関わりについて検討していく
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		療育ノートでの発信や送迎時のやり取りを通して、こどもの状況や発達について保護者と共有している	情報がより分かりやすく伝わるよう、伝え方や内容の整理を意識していく
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6	家庭での関わりに役立つ情報を伝え、保護者が日常の対応に活かせるよう支援している	家庭の状況に合わせた関わり方や情報提供の幅を、今後さらに広げていく
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用開始時に説明を行い、その後も必要に応じて随時説明している	理解状況を確認しながら、説明の仕方を工夫していく
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		支援計画の作成にあたり、会議を通してこどもや保護者の意向を確認している	意向がより支援内容に反映されるよう、確認の仕方や記録の整理を意識していく
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		支援計画の内容を確認しながら説明を行い、保護者の同意を得ている	計画内容への理解がより深まるよう、説明の工夫を続けていく
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		日常のやり取りや必要に応じた面談を通して、家族からの相談に対応している	相談内容がより支援につながるよう、対応の整理や振り返りを意識していく

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	保護者の負担や意向に配慮し、無理に交流の場を設けず、状況を見ながら対応している	交流に苦手意識のある方にも配慮しつつ、参加しやすい形での機会づくりについて今後検討していく
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		6	相談や申入れの窓口について、誰に相談すればよいかを保護者に伝えている	相談体制が十分に浸透しているとは言えず、周知の仕方や伝える機会について見直していく
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		6	ホームページやインスタグラムを活用し、活動の様子や情報を発信している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		6	個人情報は鍵付きの書庫で保管し、適切に管理している	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		6	子どもや保護者の状況に応じて、分かりやすい伝え方や情報提供を心がけている	個々の特性により合った伝達方法を選べるよう、関わり方の工夫を続けていく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	現時点では、地域住民を招いた行事等は実施していない	地域との関わり方について、事業所の状況や安全面を踏まえながら今後検討していく
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		6	各種マニュアルを整備し、職員への周知を行うとともに、想定した訓練を実施している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		6	業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害を想定した避難等の訓練を定期的に実施している	災害時により円滑に対応できるよう、訓練内容の確認や見直しを続けていく
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		6	現時点では該当児はいないが、確認体制はある	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		6	現時点では該当児はいないが、確認体制はある	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		6	安全計画を作成し、研修や訓練を行いながら、安全管理に配慮した支援を行っている	安全管理を継続して徹底できるよう、計画内容や取組の確認を続けていく
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		6	安全計画に基づく取組内容について周知している	内容がより理解されるよう、伝え方や周知の機会を見直していく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		6	ヒヤリハット事例を事業所内で共有し、再発防止に向けた対応を検討している	共有した内容を日々の支援により活かせるよう、振り返りを続けていく
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		6	虐待防止委員会を設置し、研修等を通じて職員の意識づけと対応の確認を行っている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		6	身体拘束は原則行わず、環境調整や関わり方の工夫により安全確保を行っている。やむを得ない場合には、事前に説明と同意を得た上で、計画に記載する	身体拘束に至らない支援を継続できるよう、対応方法の共有や振り返りを続けていく	